

らるゝ如くであるが、それでもまだ時間を惜しまれて、日曜祭日があれば、必ずそれを利用される、従つて、旅館に一時間でも暇な時間のあることを好まれな

し。

『どうも、斯ういふ時間がムダだね』といはれる。

従つて、各地へ出張の際、名所舊蹟行きをお勧めしても、滅多に行かれない。『景色は何所でも同じだからね』と但し、土地の状況や、集金區域について考慮されて居る砌は別である。

#### 頭取と敬神愛國の念

牧野頭取が敬神愛國の念に於て、正に他にすぐれて居らるゝことは、今日までの頭取の言行に徴して見ても明らかなことではあるが、其の證據として二三を舉ぐるならば、第一に現在の日本の銀行業者の内に、守り神を定めて、而も毎年正月元日に、その神の祭典を擧ぐる銀行が他にあらうか、其年の事始めが、我不動

貯金銀行に於ては『大黒祭』と稱して、守り神を祭る祭典なのである、即ち其年の業態の繁昌を神に祈り、且神に誓ふのが此の大黒祭なのである、これ頭取の神を敬ふ心の發露と見るべきが至當であらう。

又、地方を旅行中、往々神社の前を通過せられる時は、必らず頭を垂れ、その神に敬意を表せられるのである、又諸兄も、支店巡視の際の頭取が、先づ第一に其の店の大黒天に禮拜せられて居る光景を見受けらるゝことと思ふ。

さてそれに次いで頭取の愛國心であるが、これは、先づ第一に、抑々此の不動貯金銀行なるものを案出した原因が其所から出發して居るのである、諸兄も既に御承知の如く、日清戦役後有名な三國干渉問題があり、忍ぶべからざる屈辱を國家が忍ばねばならなくなつたのも、即ち日本の富が貧弱であるからだ、原動力ともいふべき金が無いからだ、これはどうしても日本を富ませねばならぬと考へて、それを出發點として、遂に、本行がこの世に産聲をあげたので、謂ば、不動貯金

銀行の眞の使命は其所にあつたのである、これによつて見ても如何に、當時の頭取の心が、愛國心に燃えて居たかゞ想像されやう。

亦この心があつたればこそ、十二年の大震災に際し、他行の企て及ばぬ非常拂ひの大英斷も行はれたのである。

或人の書に『己れの妻子さへ愛し得ぬものが、何で人を愛し國を愛することが出来やうか』とあるが、正に頭取は、國を愛し、人を愛し、家族を愛することの深い人である。

猶一例を挙げれば、ニコ／＼雑誌發行の動機も其所にあつたのである、その時の事情は『ニコ／＼宗』第一編の跋文中に詳記してあるが、丁度明治四十三年に、大逆事件が起つた、これ國民として口にするのも快からぬ事で、一に危険思想の跋扈したるが爲めである、その悪思想を一掃しなければならぬと國家を憂ひ、皇室を敬ふ心から、深く決心されて、仍で初めてニコ／＼雑誌の刊行となつたので

ある、斯くの如く頭取の二大事業ともいふべき、不動銀行の創立、並びにニコニコ雑誌の刊行、即ちニコ／＼主義の唱導を發表せられた二つの動機が、悉くこの愛國の精神から出て居るのを見ても、頭取の愛國心が何程強大なものであるかを想像するに難くはないと思ふ。

#### 頭取の大きさ

今日の不動貯金銀行の成功を見るときは、その聲望、恰かも斯界を風靡するの感があるが、さて翻つて、其の主宰者であり、創始者であるところの牧野頭取を見るときは、まだ／＼此位ゐの成功では小さすぎるといはざるを得ないのである。

今更、私が説明するまでもなく、諸兄は既に牧野頭取の、偉大なる人格であることの、數多くの事例を知らるゝであらう、その例に徴して見ても、今日の不動は、他日大成すべき基礎を築いたものであつて、恐らく、將來はどれ程の大きな

ものになるか、想像さへもつかぬのである、私は此意味に於て、他日の世界一の貯蓄銀行は、この不動貯金銀行ではあるまいかと思ふものである。

この事については私は、私の友人に曾て斯う物語つたことがある。

『僕をして忌憚なく言はしむるならば、現在の不動の成功は實は小さすぎるのだ、何故ならば、頭取の牧野氏を見よ、僅かに現在の不動の成功を成功として満足して居る人ではない恐らくは他日世界一の貯蓄銀行にするだらう、亦、確かに牧野氏の、あの大きな輪廓を見ても、それは想像が出来る筈だ、だが、幸か不幸か、僕は不動の祿を食んで生きて居る人間だから、その僕が、如何に眞實だからといふて、牧野氏の人格の偉大さを讃へ、不動銀行の前途の測り知られぬ大きさを賞揚したとて、一笑に付せられこそすれ、却つて誤解を招く虞れがあるから、その不利なるを知つて目下のところ僕は沈黙して居るのだ、或ひは他日、門外の人となる時があつたならば、そのときこそ、僕は僕の知り得る有

ゆる讃辭をのべて、不動禮讃を高唱するつもりである』と。

以上は私の持論であるが、その偉大なる頭取を説明する一例として、最近に斯様なことがあつた。

或日某が頭取に面晤していふのに、

『京阪神の間に於ける各店の滞貨銷却金だけでも、殆ど一百万圓に垂んとしてゐる、誠に惜しい金である、是非此の整理取立てをして、所謂百万金の遺利ををさめられてはどうですか』と。

一百万圓といへば尠からぬ巨額である、現にその金の爲めに、片岡某は數千哩遠方の海に船を泛べ、生命を賭して引揚げて居るではないか、のみならず、片岡某は忽ち潜水王とたゞへられて、その名聲頗る籍甚なるものがあることは、諸兄もよく御承知の事であらう、その巨額百万圓である、誰か耳を傾けぬものがあらうか。

然るに頭取は數日後に手紙で答へて曰く

『折角の御提案ですが、餘り高利貸的なことは致したくありません、不悪』と。これによつて是を觀るに、百萬圓少なからずといへども、十億の預金を得んとすれば、僅かに一厘にしか當らぬ、そんな小さな問題よりは、何所までも積極的に預金を増加させる方が先決問題である。と、斯う考へられたのではなからうか、其所に頭取の大きさと、溢るゝが如き人情味とを見出すのである。

以上によつて見ても、まだく不動銀行の現在は小さい、將來は大きくなり得ると断定し得るものである。

猶、これに類した例を挙げれば數へきれないから、餘は諸兄の知らるゝに委して茲には省略する。

#### 頭取の細心

世間でいふ大きい人物なるものを仔細に觀察すると、可成り粗笨に流れて居る

ものであり、細かい事に氣の付く人物は亦餘りに小さくなりすぎるものである。

併し、牧野頭取には、それが無い、一言にしていへば、大と小とを兼ね備へて居られる、つまり網にたとへれば、鯨を捕るほどの大きさと強さを有つと同時に、又白魚をも遁さぬ程の細さと柔かさとを兼ね備へて居られる、さういふ完全に近い網で魚を捕るのであるから、細大の魚は海に居る限り必らず捕らへられるのである。

私は、自分が餘り懸放れすぎて居るからでもあらうが、さう考へて頭取を觀察すると、不動貯金銀行が大きくなつたのも當然であるし、將來まだくどの位の大さくなるものか、見極めが付かぬ譯だと思ふのである。

殊に、私は性來の疎忽者と來てゐるので、時々失敗する。

たとへば、印刷物の校正などでも、自分では可成り念入りに見たつもりでも、校了の場合、頭取から返されたゲラ刷を見ると、亦鉛筆で、所々正誤されて居る、

その正誤も、随分細かい所まで手が入つて居ることがあるので、私としては恐縮するが、事銀行に關したことであれば、頭取は一字一句といへども苟しくせられないのであるといふことが、この一事に徴するも明らかである。

亦、旅行中、いざ出発といふ時などは、一々注意して居らるのであらう。

『君、毛布は……』などといはれるので、私も不圖毛布を失念して居たことに氣の付くことなどもある。

従つて用意のよいことには驚ろかされる、つまり、雨が降ると見れば窓を鎖ざされるの類で、濡れぬ内に雨具を用意されるのである、であるから、汽車に乗らるゝ時は、決して發車時刻にスレ／＼で駈付けるなどいふ事は全然無い、必らず十分なり十五分なり以前には停車場に着いて發車を待たれるのが常である、併し寒い時分に、汽車を待つ位馬鹿らしいことはないので、『停車場も寒いでせうから、此方でお待ちになつては如何です』と私がいふと、

『さや、早いのに間違ひはないからね』といはれて、多くの場合停車場で待たれるのである。

成程、早いのに間違ひはなし、よし、失念したことや、忘れ物があつても、必らず想ひ出して、取りに行くだけの餘裕がある、すべてのことが、用意して置いて惡からう筈はない『失敗は怠慢から生ずる』用意のよい所に失敗は無い譯である。

斯くの如くして不動貯金銀行のすべてが圓滑に行はれてゐるのではあるまいか。

### 頭取の儉素

必要ならばたとへ千萬金の巨額といへど吝まず、不必要ならば、一厘の微といへども苟くされない。

これが牧野頭取の、日常の生活である。

曾て雑誌ニコノの在りし日、例もの如く頭取は銀行から午後はこの倶楽部へ來られたのであつたが、その通路に、眞晝の明るさに、一個の電燈が赤々と灯されてゐた、不圖、見上げた頭取は、便所の方へ一寸戻られてバチリとスイッチを拵られたのであつた、多分小使子が忘れたのであらうが、眞晝の電燈の無駄であることは、當然なことであるが、私共は、迂濶にしてツイ氣が付かなかつたのであつた。

又、或時、私が友人某に出會ふと、その某がいふ『君の方の頭取といふ人は不思議だね、僕が面會に行くと、僕の名刺を返してくれた、多分、用済みだから、ムダにしないで、又お使ひなさいといふ意味だらう、誰にもさうする譯ではあるまいが、随分細い所に氣が付くね』といつて驚ろいて居た。

佛國の大銀行ラフィット銀行の創立者ジャック、ラフィットは、始めアルサスの田舎から出て、其頃有名な銀行家ベルジウ氏を訪問し、行員に採用方を頼んだ

が、忽ち斷わられて了つた、仍でスゴくと玄關まで出て來ると、敷石の上に一本の針が落ちてゐた、何心なくそれを拾ひあげ、襟にさして出て行くのを、家で見居たベルジウは、さても感心な青年だ、たとへ一本の針でもムダにしない、又一面から見れば、往來に落ちてゐる針は怪我の因だ、斯ういふ細心緻密な男なら行員に採用しても望みがあるだらう、といふて、直ちに採用することにした、果して後にその青年が巴里に於て大銀行を創立し、ラフィット銀行と稱されて、その頭取になり、銀行集會所長、商事裁判所長等に選れるほど有名な人物になつたといふ話がある。

豪膽も變に處するの途で必要ではあるが、細心緻密でなければ銀行家として立つては行けぬものである、殊にたとへ竹屑一つでも、空しく費やさぬ事こそ、國家全體の上から見ても最も貴ぶべき美德ではあるまいか。

少しく頭取について注意して居られた諸兄は御存じであらうが、頭取は二三年

前まで、黒の深ゴムの靴を穿かれてゐた、それが實に十年一日と申したい程で、或時、私が聞いた事があつた。

スルと答へられて『さうさ、この靴はモウ八年位になるだらうよ、あまり歩くことがないから減らないね』といはれた、成程、乗り物の場合が多いから、大して磨滅はせぬたらうが、一個の靴を八年も穿いてゐては、靴屋から苦情が出さうである、丁度其頃被つて居られた茶焦の帽子——私には随分永いお馴染の帽子であつたが、折目が古い爲め、チト空氣穴があいて居た、併し、頭取は一向氣にも留めて居られなかつた。

けれども、便利で、能率が上るとなれば、決して躊躇しては居られぬ、俵を廢して自動車になられたのも、東京に於て四百九十四番目といふのだから先づ魁といふ方であり、タイプライター、計算印刷器など、利用されて居ることは諸兄も御承知の通りである。

頭取はいふ『時は金である、費用に於て多少の額が上つても、時間に於て得るところが大なれば、其の方が確かに得策である』と徒らに給與を出し吝んで質の悪い人を使ふが如き愚はせぬのである、俗に一文吝しみの百損は、牧野頭取は大嫌ひである。

従つて私の想像が許さるゝならば、近く設計せらるゝ本店の建築の如きも、華麗ではあるまいが、可成り文化的設備の整つた、質實な感じのする建物が出来るところではあるまいか、これ或意味に於ける頭取の人格の表現だからである。

序に書くが、本店にあらるゝ日、頭取初め重役方も、午餐を攝らるゝのに、他會社に見るやうな、或ひは洋食を、又は鰻を、などといふことは藥にしたくも見られぬのである、毎日、我々と同じ物で満足されて居ること勿論である。

### 頭取の寛仁

自から持する嚴、人を待つ寛、とは現在の頭取を評するに最とも適當な語であ

るが、然らば頭取は性來のニコ／＼主義者であるのか、といへば、私は否と答へざるを得ないのである。

曾て頭取は斯ういはれたことがある

『いや、實をいへば、僕自身が非常に過激な氣性であるから、ニコ／＼主義によつて大いに自分自身を反省するのである』

といはれてゐたが、或ひはこれが眞實であらうと私は信ずるものである。

何故ならば、好んで日蓮主義を曾ては求められたこともあり、亦、頭取自身の講演集にもある如く、遊學中、大患にかゝつたとき、醫師看護婦等の引留めるのも肯かず、遙々故郷へ歸られて、遂に一滴の薬も服まず、精神療法によつて全快された例もあり、猶ほ、不動貯金銀行創立當時に於ける、思ひ切つた活動ぶりなどから推測して見ても、可成り過激な氣性であることを窺ふことが出来るのであるが、併し、私は十數年來、近侍してゐるが、未だ曾て頭取から過激な叱言を頂

戴したことがないのである。

然らば、私に全然失策がないのかといへば、否、さうではないので、言を換へていへば、要するに頭取が己れを持するに峻嚴、他を待つに頗る寛大だからである。

一例として擧ぐるには、餘りに不名譽な次第であるが、曾て斯様なことがあつた。

今から七八年前、隨行中の出來事であるが、朝金澤を出發して、其日夕刻に上野着の豫定で分岐點の越後直江津驛まで列車が來た、時に午後一時、如何に快速力の機關車でも同日の夕刻に上野へ着く筈がないので、不圖私は氣が注いでポイーに尋ねると『此列車は今夜十一時に輕井澤驛でとまります』といふ答へを得た、仍て私は、愈々訝しいと思ひながら、鞆の中の旅行案内を取出して、よく／＼見ると、間違ふのも道理、甲頁と乙頁の時刻表の線が、製本が悪い爲めに、二に入



るべきものが、一に接続して居るので、甲頁は正に金澤を朝出發して居て線を追ふて行けば、乙頁も是れ亦正に夕刻上野驛に到着して居るのである、併し仔細に甲乙兩頁を全體から見るときは、朝金澤を出た列車は夜半に輕井澤で止まつてゐるのであつた。

私は實際驚ろいた、これは不可ぬ、飛んだ失策をした、第一御多忙な頭取は、私の書いた旅行日程を信じられて、今日は歸京の御豫定になつて居る、或ひは、明日といふ日で、どのやうな大切な契約が成り立つて居られぬとも限らぬ、若し、歸られぬとすれば、そこに非常な齟齬を來しはせぬか、困つたことになつたと思つたが、既に、さういふことになつて了つたのであるから如何とも致方はない、仍で私は、この重大な過失に對する責によつて、心ひそかに大目玉を食ふ覺悟をして、此の旨を頭取に口早に告げたのである。

ところが、意外、怒ると思つた頭取は、却つてニッコリと微笑されて

『さうかい、ぢや今夜は長野へ泊つて明日早く善光寺へ參詣して、明日日一ばいに東京へ歸らう、長野の宿と、本店へ電報を打つて置いてくれ給へ』とたつた夫れツきりである、

私は一時ホツとはしたが、さて、自責の念は、却つて私を責めて、今でも其時のことを考へると心一ばいの恐縮を感じるのである。

如何に頭取が人を責められぬかこの一事で見てもよく知ることが出來やう。

斷わつて置くが、頭取は曾てその以前に、長野へ行かれたことがあつて、私が其時も隨行して善光寺に詣でられたのである、だから何も此場合長野へ行かれずともよいのであるが、私の失策を却つて繕はれる爲めに、善光寺へ參詣しやうと言はれたのである、此の寛大さと、この温情とがあることによつて、私どもほどの位の働さよいか知れぬのである。

さういふ頭取の寛大さが、我々に對しては温情主義となり、社會に對してはニ

コ／＼主義となつて現はれたのであらう。

であるから、時には世間話しが出て、私が遠慮なく評し

『新聞では褒めて居ますが、随分彼の人にも斯ういふ事があつたさうですよ』といふと、頭取は打消して

『いや、さうでないよ、實際あの人は偉いのだ、斯ういふことがある』など、實例をあげて、却つて賞めてゐられるのであるが、頭取は長所をのみ見られて短所はつとめて見られぬのであらう、否、見られても『今日一日人の悪を言はず』の條項を堅く守つて居らるゝのであらう。

顧みて誠に忸怩たらざるを得ない。

序に書くが、震災後、經費節約の意味に於て、第一に手當を辭退されたのは頭取であつた、さうして、旅費日當の半減を頭取の旅行に限り實行されやうとも言ひ出されたのである。

自から嚴に——の實證として茲に擧げる。

#### 頭取と公私の別

規律嚴格の模範とまでいはるゝ兵營内に於てさへ、兵卒が下女代りに使はるゝといふ今日、頭取は決して公私混淆はされぬのである。

これも亦旅行の話して恐縮するが、旅行中頭取は、時に理髪もされるし、按摩をされることもあるが、歸京後、旅館の領收書から直ちにその料金を削除し、私に支拂はれるのである。

時に、旅中支配人などに饜應せられることもあるが、さういふ費用に就ても、『あれは、銀行で出す性質でないから、僕の方から出す』といはれて、一々公私の別によつて、御自分のポケットから支出されるのである。

或時、頭取がいはるゝのに、

『僕は、銀行に出では、帳簿を一々細かに見るが、我家の帳簿は未だ曾て見たこ

とがない』といはれた、如何に行務に對して責任の重きかを感じて居らるゝか、分るではないか。

斯くの如き例を擧ぐれば數ふるに違がないから茲には省略する。

#### 頭取の趣味と娛樂

頭取の趣味は『銀行業』であり、娛樂も亦此の内にある、或人は『趣味と職業と一致した人こそ眞の幸福者である』といふて居るが、斯くの如きを幸福といふならば、頭取も亦、その幸福者の一人であるといへやう、頭取に於ては趣味即銀行銀行即趣味である。

強てその他に求むるならば心靈問題の研究である、尤とも銀行といふ業務に對しての心靈問題は、立派な詩であるといへる、であるから頭取は、心靈問題によつて豊かに詩趣を味はふて居られるのである。

娛樂としては滅多に見受けぬが圍碁がある、球突も少しはやられるが、それは

運動としての程度を超えられぬ。

運動といへば、所謂自から進んでの運動はあまりやられぬ爲め、按摩をとつて他動的な運動を時々やられる、それが爲め旅中でも、時には按摩をとられることがある。

猶書きたいことも多いが、頭取の御性格や、其の他については、今までに印刷されたもので充分御承知のことでもあるし、餘り大部のものになると、御多忙な諸兄のお邪魔にもなると思ひ、此邊で筆を擱くことにする。多謝。

卑怯なものは必ず失敗する、彼所は形勢がよくないからとか、今の内退いた方が得だらうなどと思ふて、小悞口に考へて身を退いた人は、決して成功はしない、世の中は、何所までも大なる勇氣を以て成し遂げるものに、最後の勝利と、永久の幸福とが與へられる。(大正九年二月内報頭取談話の一節)

## 第八章 同行と一般貯蓄銀行

昭和二年三月の恐慌以來、貧弱なる全國貯蓄銀行の預金は甚しく減少し、其大部分は郵便貯金の方へ走つた。従つて貯金局では嘗て十億圓の貯金吸収が目標であつたに係らず、恐慌後の五月には十四億五千九百餘圓に激増し三、四の兩箇月間に、實に二億九千六百餘圓の激増を告ぐるに至つた。而して此現象は今日尙已まず、今や十七億圓に垂んとして居る。郵貯は一度預け入れたる以上、戻らないのを原則として居る爲め、地方金融界の疲弊は、豫想以上に甚しいものがある様になつた。蓋し此増加率は都會地より、地方へ行くだけ其傾向が甚しい爲め、さなきだに資金の涸渇に苦しんで居る地方は、金融上に於ける壓迫が、都會地より更に深酷を告ぐるに至つた。資金還元論の喧しくなるのは當然であつて、政府でも見る處あり、其後二億四千萬圓の郵貯を割いて地方團體、各種組合等に、高利

債の借替へを行はしめ、又新規貸出に應じた。此還元政策は將來益々助長せらるべく、又郵貯の増加は、大局より觀て決して慶賀すべき現象でないのである。

然しながら斯くの如く國民より厭かれた種子は、銀行自身が皆播いたものであり唯をも怨むべき筋でない。今後はよく自戒して、信用の恢復に努力するより外、致し方がないのである。恐慌後、普通預金は所謂五大銀行に大半集まり、零細なる貯蓄預金は、上述の如く郵貯と、不動其他の數銀行に集中され來つて居るのである故、貯蓄銀行たるものは、更に深く内容の改善に力を傾注する必要がある。

而して全國の貯蓄銀行中嶄然頭角を擡んで居る同行は、其大部分の預金を不動貯金と定期預金とに有して居つて、貯蓄預金は極めて少額なる關係上、郵貯の増加趨勢に對し多くの因果關係を有して居ないのである。其隆々たる信用に於て殆んど何等の影響すら蒙らない立場に樹つて居るのである。寧ろ積極的に郵貯還

元の一大威力すら發揮して居ると稱してよいのである。然るに他の貯蓄銀行の大部分は零細なる貯蓄預金、即ち要求拂の貯金を主たる業務として居るか、又は信用失墜の結果、郵貯の激増に對する反響は皆夫れ々相當に大きいのである。

而して又同行は貯金者奉仕を第一として、ドシト貸付に應じて居るが、他の同業銀行中有力なるものは大銀行又は富豪を背景として居る關係上、零細なる資金の吸収一方に傾き、貸付に力を注いで居ないから、貯金の増加率が甚だ低いのも、當然免れ難い處であり、又夫れだけ郵貯の脅威を受けて居るのである。今昭和二年末に於ける一千萬圓以上の預金を有する全國貯蓄銀行の比較を試みて見やう。

所在地	銀行名	預金高
東京	不動貯金銀行	二五九、九二六千圓
大阪	大阪貯蓄銀行	一二七、六六四
東京	安田貯蓄銀行	一一七、六四〇

同	川崎貯蓄銀行	一〇三、八〇三
同	東京貯藏銀行	四〇、六一八
愛知	日本貯蓄銀行	三九、九二二
東京	東京貯蓄銀行	二五、五〇一
新潟	新潟貯蓄銀行	二二、三四五
愛知	名古屋貯蓄銀行	一八、三七〇
岡山	岡山合同貯蓄銀行	一六、七六三
東京	内國貯金銀行	一五、三九七
大阪	愛國貯金銀行	一三、五二一
同	攝津貯蓄銀行	一三、〇〇七

而して右の諸貯蓄銀行中、一億圓以上の預金を擁する銀行乃至は夫れ以下の銀行に於ても、優秀なる内容を有するものが多いが、同行の營業方針は自ら特異なものがあつて、一律に形式上の比較を試むる事は、年來吾輩の反對する所である。同行は貯蓄銀行なりと雖、其實勢力に於て寧ろ普通五大銀行と比較するを以て妥

常なりと信じて居るからである。乍然此所論はきて置き、同行を除いて、今左に一億圓以上の預金を有する大阪、安田、川崎の三大貯蓄銀行の内容を比較して見ると、其營業振が明白になるのである。(單位千圓)

昭和二年度未貸借對照表

負債之部

科目	大阪貯蓄	安田貯蓄	川崎貯蓄
資本金	二、〇〇〇	五、〇三五	五、〇〇〇
諸積立金	五、一七〇	一、六六五	二、九八〇
行員退職恩給基金	四五六	二六五	二六五
諸預り金	一二七、六六四	一二七、六四〇	一〇三、八〇三
給付補填備金及利息支拂備金	三、五六七	一、八一四	四、三九二
未拂利息及未經過利益	四〇二	二八七	一〇一
前期繰越及當期益金	九二七	三三八	六三六
合計	一四〇、一八八	一二七、〇四六	一二七、一七九

資産之部

拂込未済資本金	一	二、九六二	一、二五〇
諸貸出及引受手形	八、九八五	一二、九四五	二七、九一一
預々金及郵便貯金	六、七四二	一五、三八二	二〇、九三一
國債及有價證券	一一七、七〇四	九〇、七六二	五五、七三七
營業用土地建物什器	三、九四四	二、一八〇	四、五三五
現金	二、八一	二、八一三	三、四一三
新築費假拂金	一	一	三、四一三
合計	一四〇、一八八	一二七、〇四六	一二七、一七九

利益金處分

科目	大阪貯蓄	安田貯蓄	川崎貯蓄
前期繰越及當期利益	九二七	三三八	六三六
諸積立金	三一〇	一三〇	一五〇
行員恩給基金	五〇	三〇	一

重役賞與金	三八	一〇	二十
配當金	(年八朱) 八〇	(年六朱) 六二	(年八朱) 一五〇
後期繰越金	四四九	一〇六	三一五

即ち其營業振は全く預金吸収を第一となすものであつて預金者の全金融機關たるものでない。従つて庶民階級の便益は貯蓄に限られて居り、行詰の状態に在る中産階級の金融機關として、論及すべき何等の價值すらない。

普通銀行が民衆の貸付に應じない、金融梗塞の現況に處して、國民經濟生活の實際に鑑み、凡ての貯蓄銀行も、成るべく庶民金融機關たるの實を示さん事を、要望せざるを得ないのである。

## 第九章 事業費に関する考察

定期積金制度は同行の創設に基き、我國の金融界に於て異常なる發展を遂げた。現在では郵貯でも、亦何れの貯蓄銀行でも、此制度を採用して居ないものはない様になつた。又信用組合、何々金庫と稱するもの、主たる營業科目も此定期積金の募集及之に關聯する貸付であつて、其他の營業科目は、唯單に看板に過ぎぬ有様である。而して此事業は、他の銀行業務に比し、相當多くの經費を要するものであつて、所謂大量生産に依らざれば収益を擧げ難いのである。従つて此種の銀行は好意に解し、重役が不正を行はざるの意志を有すとすると、尙容易に収益處が每期多大の損失を蒙らざる可らざる關係上、種々の弊害を醸し、不良なるものは殆んど倒産し盡したのである。

何が故に斯くの如く經營至難なる事業なりやと云ふに、豫想以上に多くの事業

費を要するが爲めなりと、一言にして断定し得るのである。事業費の主なるものは、募集費と集金費とであつて、小銀行に至るだけ其負擔は大となつて居るのである。然るに弱少銀行と呼ばれるものだけ、一回の掛金は有力銀行よりも割安なのだから、此位矛盾した事は少ないと思ふ。同行の掛金は三年百圓に付き二圓六十五錢で其高い事日本随一である。大阪貯蓄は二圓六十錢、安田貯蓄二圓五十八錢、川崎貯蓄二圓五十七錢其他貧弱なるものになると二圓四十何錢等と云ふものすらあつて、此掛金の割合は千差萬別である。理論上から言へば規模の小なるものだけ高くなければならぬ。同行は其雄大なる内容に於て、天下一の安い掛金でなければ、論理が成立しない筈である。同行が當初二圓六十五圓に決定した爲め、爾來雨後の筈の如く簇生した諸銀行が、思ひ／＼に、夫れ／＼安くしたのであつて、採算も何もあつたものでない事が略ぼ想像し得る。

而して同行の中止、解約率は五割近いものである事を前に述べた。此中止、解

約率は不良、弱少なる銀行に至るだけ多く、従つて其事業費は、豫想外に多大となるのである。尤も中には中止には喜んで應じるが、解約には絶対に應じないものもあつて、中止に對する罰法として、一回分の掛金を差引き、然かも満期日に至らざれば掛金を戻さない連中もあるのだから、驚くの外はないのである。此輩は預金者の金を無料で使用する氣で居る故、安い掛金で莫大な經費をかけて平氣で其日々々を送り得るのであらうが、其爪牙たるや巾着切以上で、唯しつかゝらぬ用心が何よりである。

生命保険界に於ても、優良な會社だけ掛金が高い。然かも其配當率は夫れだけ、或は夫れ以上に高いから、却つて最後には莫大な利益となつて居る。而して其事業費の如きも、劣悪なるものと比較すると、驚くべき程差があるのである。定期積金界に於ても、保険界に於けるが如き、確實なる比例及標準を算出したならば各銀行間に於ける事業費の格差の甚大なるものあるに、驚かるゝであらうと考へ



る。

例へば生命保険界にあつて、最近最も成績の優秀なる千代田生命の掛金は、五十一圓七十四錢（標準）で高い事に於ては一流である。而して事業費は全部の保険會社中左記の順位である。

順次	比率
第一生命	・一六八
三井生命	・一七二
日本生命	・一九五
千代田生命	・二一一
明治生命	・二一四
帝國生命	・二一四

而して問題の會社、八千代生命は三割五厘、旭日生命四割五分二厘、戦友共済

五割四分八厘、共同生命六割九分五厘等と云ふに至つては沙汰の限りで、其奄々たる氣息は、此一點だけでも明白に感取し得るのである。

恐慌以來民衆の銀行に對する感念は非常に嚴格となつた。之は洵に喜ぶべき現象で、苟くも自己に關係ある銀行の如き、出来るだけの機會を利用して、其内容の監査に心懸けねばならぬ。況んや定期積金銀行の如きは、最も其選擇に注意すべきであつて、唯簡單に掛金の安いと云ふが如き一點から加入に應ずる時は、飛んだ目に逢ふ事を深く考慮せねばならぬ。

而して同行の募集費及集金費は、昭和二年下期に於て約百八十五萬圓であるから、同期中に於ける集金總額八千二百八十六萬餘圓に割當つれば、年二分三厘に相當して居り、之一箇年分の貯金利子三分一厘を加ふるときは、五分四厘となり、普通大銀行の三年定期預金と大差がないのである。斯かる割安の事業費は、他には絶對にないと言つてもよいのであつて三流、四流の据置貯金銀行に行くと、

事業費が一割も二割もかゝつて居るのである。加之貯金利子が五分内外であると  
したならば、ドーして利益を擧げ得るか、倒産又破綻の當然なること理義明白で  
あらう。

## 第十章 結 論

同行研究の目的は、行詰つた我國の財界に、幾多の活ける教訓を投げん爲めで  
あつた。徒らに形容詞を羅列して同行を讚美し、先生を禮讚せんが爲めでない。  
見よ、自由放任に基く資本主義發展の歴史性には、幾多の重大なる缺陷があり、  
之が匡正は實に時代の要求となつて居るではないか。資本家は其横暴を最も慎ま  
なければならぬ、しかも資本の蓄積は急務中の急務であつて、先生が同行經營  
の眞目的は實に此處に存して居るのである。

而して財界の危機に面して、同行が獨り隆々たる繁榮を競ふ所以は何に因るで  
あらうか、當代日本の金融界に於て、匹儔を見ない偉大なる其内容は、遂に時代  
の要求に依りこゝに雄姿を現はした。先生の如き堅き信仰を以て事業界に臨むな  
らば、腐敗も行詰も人心の惡化もあり得べきものでない。夫れは既往三十年間に

於ける同行の歴史が明白に、雄辯に、之を物語り、立證して居る。國際間に於て國家の立場から、北米合衆國の繁榮を攻究するのは勿論必要であるが、唯其事業遂行に際し、根本の精神を忘れては何んにもならぬ。信仰と自省と正義人道とに基くにあらざれば、斷じて永遠に亘る隆昌は期し難いのである。

同行の發展は其歴史觀に於て我產業界に範を垂るゝこと甚大である。同行は確かに我財界の模範であり、先生は確かに近世日本の一大偉人である。平和にして穩健、質實にして剛健、ニコクにして商賣繁昌。斯くして國民生活の充實となり、國運の進展は愈々隆々たらんのみである。

## 附 錄

### (一) 歐米に紹介した同行

左記の論文は、嘗て、余が經營に係る通信を通し、同行の内容を歐米人に紹介したものである。

#### THE KABUSHIKI KAISHA

#### A FUDO CHOKIN GINKO

(The Fudo Savings Bank, Limited)

The Fudo Savings Bank, Limited, is one of the leading banks in Japan, having a paid-up capital of Yen 2,000,000.00. Although the bank is a savings-bank, it has collected an enormous amount of deposit money, and is generally believed to be a most reliable and creditable one as compared with ordinary banks. It may safely be said that the standing of the bank is more solid than the Mitsui

Bank or the Mitsubishi Bank who are the prominent banks in this country. The total amount of the deposit the bank has received so far is about Yen 192,130,000.00, and its capital and reserve fund being Yen 2,000,000.00 and Yen, 3500,000.00 respectively, the gross total comes up to about Yen 197,580,000.00 ; of which 50% is invested in public loans, and 8% in debenture debts. Furthermore, 14% is loaned to those who have savings in the bank and 3% to those who have fixed deposits. Very small figures of 1%, 1.5% and 2.2% are lent on securities of immovable properties, bills guaranteed by banks and personal estates respectively. The balance of 23% or thereabout is held by the bank by cash and deposit. Thus the management is extraordinarily safe and there is no one that has any fear for the business of the bank. The number of the depositors being verry large, Mr. Motojiro Makino, the president of the bank, bearing the responsibility on his shoulders, exerts all his powers to consolidate an eternal and stable basis of the

bank. He reduced the rate of dividend to the shareholders to 20% at the last settlement, and declared the dividend of Yen 400,000.00 to the so-called Fudo savings depositors. He has distributed a big amount of not less than Yen 3,900,000.00 to the depositors for the last nine business terms. We believe there is no one on earth that will not feel reverence for all his goodness. At the recent settlement the gross total of the deposits the bank has got is about Yen 413,730,000.00 and these figures will no doubt remain for some years to come although any drawback is made. We think such a reliable bank is quite rare even in the continental countries, and therefore we wish to introduce this Fudo Savings Bank to the foreign people. What we call "the Fudo Sayings" is a kind of deposit to be left unredeemed for say 3 years or 5 years, making a deposit of certain sum of money monthly. Canvassing is made as for life insurance, and almost all class of people of the day have interest in this particular deposit. The immutable

steady business management of the bank has rendered great services to the encouragement of savings of the people in general. The bank is the originator of this kind of particular savings and is very much praised up by all quarters. The founder is Mr. M. Makino, the president of the bank. May the future bring the bank further success in its undertakings.

(右譯文)

### 日本一の不動貯金

株式會社不動貯金銀行(資本金二百萬圓全額拂込済)は、我日本の銀行界が有する唯一の誇りである。貯蓄銀行として最大の預金を有するのみならず、廣く之を一般の普通銀行に比するも、實に數指の間に算し能ふ驚嘆すべき強力と、堅實味とを併有して居る。三井、三菱、安田等の大銀行と比肩して、隆々其勢望を競ふのみならず、内容の堅靱なるに點に於ては、或る意味からして遙かに之等の銀行を凌いで居るとも言ひ得る。

蓋し同行の總預金は一億九千二百十三萬餘圓で、之れに資本金の二百萬圓及積立金の三百四十五萬圓を加へると、合計一億九千七百五十八萬餘圓となり、之れを奈何なる方面に放資して居るかと觀るに、公債に五割、社債に八分、不動貯金者貸付金に一割四分、定期預金者貸付金に三分、不動産抵當貸付金に一分、銀行引受手形に一分五厘、土地建物什器に二分二厘等の割合で資金を運行して居り、残り約二割三分を、預ケ金及現金として保有して居る有様で、其強堅なる經營振に對しては、恐らく何人も、興味を感じないと思はれる程石橋主義である。之は預金者の數が非常に多い事よりして、頭取牧野元次郎氏の責任觀が根本をなして、如斯萬代不易の業礎を着々堅めて行かれる事と想像するが、別して最近に於ては株主配當金を從來より減少して二割に止め、不動貯金配當金は今期も四十萬圓の計上をなし、既に過去九營業期間に三百九十萬圓てふ莫大の額を放出して居る同

氏の衷情に對しては、何人も尊敬の念を拂はぬものとしてあるまい。

今期決算に於て貯金契約總額は四億一千三百七十三萬餘圓に達して居るから、今後數年間には拂戻があつても、此貯金契約總額に略ぼ近い不動貯金が決算面に現はれ來る事と觀測される。

如此優秀なる内容を有する銀行は、歐米にも餘り類例があるまいと思ふから、特に外人諸君に紹介する所以で、不動貯金と稱するものは三年或は五年据置の月掛貯金を指し、其殆んど全部が生命保險の契約同様に勧誘に依りて締結され來つて居り、我現代日本の奈何なる階級を通じても廣く歓迎されて居る。

同行の多年終始一貫變らざる此營業振は、國民の貯蓄思想に、甚大なる貢獻をなし、今日多數の同業者中斯界の鼻祖と仰がれ、各方面から多大の賞讃を博しつゝあつて、其創設者は頭取牧野氏である。

## B GLORY OF THE FUDO SAVINGS BANK

We have three excellencies in the financial world of this country, that is to say, the Mitsui Bank, the Mitsubishi Bank and the Fudo Savings Bank. There may be a few institutes that have equal amount of deposits to the Mitsui or the Mitsubishi, but in their substance they are far from being called as typical one. These three banks, the Mitsui, Mitsubishi and Fudo, are very well spoken of by all the people unanimously, the Fudo commanding the first class respect above all. The Mitsui and the Mitsubishi are the rich families symbolizing the wealth of Japan, and their enterprises are so well known to the world. Their banking business, however, has the least connection with the people in general, because they are the financial organs for the so-called bourgeoisie. Contrary to this, the Fudo Savings Bank symbolizes the God of Wealth, and wins good reputation among the people. They exert themselves to the banking busi-

ness only, looking after the interest of their depositors. We may say that the bank is the pride of Japan, as they show a good example to the world. The total amount of deposit they have is about Yen 300,000,000..... Contracts for savings amount up to Yen 620,000,000....., which is less than that of the Mitsui Bank or the Mitsubishi Bank by about Yen 200,000,000....., but they are planning to make them go up to Yen 500,000,000..... Their work is in a fair way to success. The amount of contracts during a month in the first half of this year(1927) was Yen 40,000,000....., and it went over the enormous amount of Yen 50,000,000.....to Yen 60,000,000.....in the latter half. Notwithstanding the panic having overtaken the money market last year, the bank has realized satisfactory results, which is partly due to their best efforts and partly due to the aid of the people. During the last year life insurance companies in Japan could make much less contracts than the standard figures of the ordinary year. Cancellation

of contracts was so many and very few companies made new contracts amounting to Yen 10,000,000.....last year. From the above facts one can see how high the credit of the Fudo Bank stands. They opened last year branch offices at Hakusan, Koishikawa, and at Ryogoku, Honjo, in addition to Nihonbashi and Ueno branch offices in Tokio. Each of them have more than 10,000,000.....yen deposits. It is very hard even for a branch office of a first class bank to absorb this sum of deposit money, competition for collecting it being very keen in Tokio. It is unusual that they are in such a good position. There are some who compare the Fudo Savings Bank with the Osaka Savings Bank or with the Yasuda Savings Bank, but the latter have only about one-third of the Fudo's deposit, they being banking organs for wealthy people without doing general banking business. The Fudo accommodates with large amounts of money with good security only, one-third of the deposit money they collect is lodged at the Government.

They lay by a big sum of reserve fund at every settlement term. They are working steadily and are doing their utmost to be superior to the Misui and Mitsubishi in points of deposit money and credit. Every one of the people takes the view that they will certainly reach their ends in the near future.

May 1928 be more prosperous than ever!

(右譯文)

### 光輝燦然たる不動貯金

現在日本の金融界が有する誇りに三箇のものを提示し得る。曰く三井、三菱の兩銀行及び不動貯金銀行が夫れである。預金高より見れば三井、三菱に匹敵し得るものにまだ二、三を數ふるが、其内容實質に於て、日本の代表的銀行なりと稱するには不充分である。蓋し驚異と嘆賞の聲を、異口同音に唱へられつゝあるも

のは、此三大銀行を以て至上とする。別して大衆日本民族の謳歌と、尊敬とを博しつゝある點に於ては、不動貯金を第一位に推し得るのである。三井、三菱は日本の富を象徴する大富豪として各種の事業と共に世界に轟いてゐる。乍然其銀行は、特種の一階級即ち廣義に於けるブルジョア階級の金融機關たるに止まり、其一般的影響は直接民衆に多くの關係を及ぼさない。反之不動貯金は大衆の福神を象徴する銀行として、汎ゆる階級より歓迎せられ、多年不羈獨立にして、然かも一貫したる方針の下に、一路金融業に精進し、預金者の利便と、幸福とを増進せしめつゝある點に於て、實に日本の誇りたるのみならず、世界の銀行界に範を垂るゝもの甚大なりと思ふ。

總預金は現在約三億圓、貯金總契約六億二千萬圓であつて、三井や三菱の銀行に比較すると未だ二億圓近く少ないが、目下兩三年の間に五億圓となす大計劃を樹立し、着々其成功の域に進みつゝあるのである。一箇月間に於ける新規契約は



昭和二年上期中四千餘萬圓の記録を作り、下期には更に進んで五千萬圓、六千萬圓と云ふが如き驚異すべき大金額に達して居る。昨年度の不景氣は、財界のパンクを受けて意外に甚大であるにも不係、斯る好結果を齎し得た事は、其信用以外に隠れたる大なる努力と、民衆の共鳴の結晶である事に、注目する必要がある。蓋し昨年度に於ける日本の生命保險會社は、多年の標準比例を破つて新規契約の減少、解約失效の夥しき、一流保險にして尙且つ生色ない有様であると稱せられて居り、一箇年を通じ、一千萬圓以上の純増加契約を見たるものは極めて少ない有様であるから、不動貯金の偉大なる信用と、異常なる努力は、特筆に値するものがある。

同行が昨年中東京市内に於て、從來の日本橋、上野兩支店の外に白山、兩國の二支店を増設し、之等の四支店共皆一千萬圓内外の預金を抱擁して居る現況に對しては、眞に其内容の充實味を物語つて居り、市内の一流銀行と雖一支店を以て

して、一千萬圓内外の預金を吸集する事は非常に困難で、預金爭奪の激甚なる東京市内に於て、斯る優越なる地位を保ち占めてゐる事は、甚だ珍らしい事柄なりと謂はねばならぬ。

人は往々同行を大阪貯蓄、安田貯蓄等と比較するが、之等銀行の預金高は、不動貯金の三分の一以下であり、且つ多くは富豪の預金吸收機關たるのみで、貯蓄銀行業全般の事務を廣く行つて居るものでない。同行は信用を以て巨額の投資を行ひ、總預金の三分の一を政府に供託して、每期莫大なる積立金を留保し、内容の彌が上にも堅實を期すると同時に、民衆の金融機能として、其威力を張り、屈せず撓まず三井、三菱以上の總預金と信用とを博せんとして奮闘しつゝある點は、眞に畏敬に値するものであつて、遠からざる將來に其時期の到來すべきや必せりであらうと、各方面から觀測、歓迎されて居るのである。

## (二) 日本に紹介した同行

左記の論文も余が嘗て発表したもの、一部で、大部古いものではあるが、同行発展の経過がよく解るから、此處に輯録することとした。

## A 民衆の銀行不動貯金

株式會社不動貯金銀行は、過般震災地即ち東京、横濱、横須賀三市の預金者に限り、向ふ三箇年間、一箇年以上所定の定期積金を遅滞なく掛け込んだものに對し、契約高全額の貸付を發表した。

從來同行が取り扱ひ來つた方法は、一箇年半以上繼續して積金をなしたものに限つて居つたが、今回は半箇年間時期を早めたもので、震災地の復興建築其他に對し、社會的に甚大なる反響を與へた事を觀測する。

今や一世を擧げて不景氣の絶頂に在つて、金を持つて居るものは、銀行の定期預金か、一流有價證券に放資するの外、殆んど何等の積極的方策に出て居ない。利益のある商賣は二、三を數える位のもので、財界は行き詰の窮境にあり、富は益々一方に遍在するのみで、失業者は日に々増加する許りである。然しながら我財界は事實に於て何時までも此現狀を以て痲痺されて居る筈がないから、順次に根柢を堅めつゝ、早晚一大活躍を見るべきや明かであつて、又現に其過程にある様である。

復興局の移轉命令は既に諸所に發せられて居り、復興建築助成株式會社も出來、着々新東京再建の途中にありと雖、奈何せん震災の打撃が尙餘りに大で、各人共に餘裕に乏しい現況に在る。放資家の大部分が手を出さないと云ふ此時代に、同行が率先して復興を助成すると云ふ勇氣だけでも偉いものだ。而して同行では昔から發表した約束を違へた事のないのは餘りに周知の事實で、吾輩が茲に提灯を

プラサゲル迄もない。一箇年定期積金をなし、全額の借り入れが出来るとなると、コンナ便利な銀行は日本に全くないと言へる。

例へば三年積金なれば一年の後、即ち二年目の初めから、契約高全部を借り入れて、三年間に元利金を返済するのだから、借主も非常に樂だ。擔保は不必要で、唯適當の保證人があればよいのだ。ホントを言へばこんな大事業は政府か、又は特殊銀行でやつて欲しい仕事の様に思ふ。

要するに凡ての人に、有益なる仕事は、便利で迅速でなければならぬ。して見るとこれだけの大事業を敢然としてなし得る銀行は、現在の我國に於ては同行を除いて、他にはあるまい。預金が二億もあれば、關係事業會社の二、三十も作つて、肩で風を切つてあるく世の中だ。然るに同行には關係會社と云ふ利己的なものは一つもない。名實共に徹底した民衆的銀行で、今回の計畫發表は、各方面から甚大な賞讃の辭をあびせられてゐるのみならず、知らず／＼財界各方面にも痛

烈なる刺戟を與へつゝある様に見受ける。

牧野元次郎氏を一銀行の頭取にして置くのは、國家經濟から觀て洵に惜しい様な氣がする。其創造的であつて、堅實味に富める、誰れか一つ日銀總裁にでも祭り上げて、他人の企及し能はざる快手腕を振はして見たら頗る痛快の様だね！

## B 不動貯金業績愈々優良

株主會社不動貯金銀行（資本金二百萬圓全額拂込済）は今期に於て第五十二期の決算を重ね、業績愈々優秀にして天下に「貯金は不動」てふ熟語を知らず／＼の間に堅く植付けたる一大業績に對しては、何人も之れに異議を唱ふるものはない。

今期の貯金總契約は四億二千九百七十九萬餘圓に達し、預金總額亦一億九千九百五萬餘圓に上れる一大盛觀は、仰いで以て只管國家興隆の爲め深く欣ばざるを

得ない。同行が權勢に阿らず、免れて恥なきの行爲を斷じてなさず、獨立獨行、よく多年一貫せる主義を以て、民衆の金融機關として、其主旨を貫徹し來れる。方今我國內に如斯有益なる銀行を求むるも全く得難いのである。三年或は五年の据置貯金を主たる業務とする銀行に於て、實際上不正をなさざるの堅い意志を以て、行務を見て居るものは殆んど稀れであつて、従つて皆早晚破産を餘儀なくされて居る。最近の實例に就て見るも曰く報徳銀行、曰く實業貯蓄銀行、曰く共榮貯金銀行等々と數へ來れば枚舉に遑まない。之等の銀行當路者は、當初から誠意を缺けるものであつて、鵜の眞似する烏たるに至りては同一轍に出で、居る。而して同種の銀行にして其餘のものと雖、多くは虚偽の事實を宣傳して預金の勧誘をなし、常に預金者に多大の迷惑をかけた、あるを、平凡茶飯事と心得て居るものが多いのに對して、斯界の爲め大に嘆かざるを得ない。然るに世人は此間に在つて獨り同行に對し、最大にして最高の敬意を拂ひ、三井、三菱の兩銀行と

併稱するの偉大と、堅實味とを信じて疑はざるは、多年の購ひ來れる信用の累積であつて、經營主腦者牧野氏の崇高なる人格の發露なりと斷せねばならぬ。今期の純益金及其處分等を前期に比較して見ると左の如くである。(單位千圓)

	今 期	前 期
當期純益金	一、三四七	一、〇一七
内		
不動貯金者配當金	五〇〇	四〇〇
積立金	二五〇	二〇〇
株主配當金	(年二割五分) 二五〇	(年二割) 二〇〇
役員賞與金	一一〇	八〇
後期繰越金	二二七	一三七

即ち今期の利益は前期より相當に増加し、其處分も夫れく優良となつて居る。前期は年二割配當であつたが、今期は二割五分となり、貯金者配當金も前期より十萬圓増加の五十萬圓となつて居る。又各勘定科目に就て、前期との比較を見れ

ば、今期の總預金は前期より七百萬圓程増加して居り、所有公債は約一千九百五十萬圓減少し、其代りに貯金者貸付金が一千二百萬圓程増加し、特に現金在高の六千萬圓が目立つて居る。公債は最近可成り値上りを見たので有利に轉賣されたものと思ふ。

而し現金在高が總預金の三割に達して居る事は、一面財界の深刻なる不況に對する警戒を、如實に語つて居るものではあるまいか。一流の大銀行だけ金が餘つて放資に困つて居るが、同行等も其一例であつて、奈何に經營の眞面目にして内容の充實せる事とが明瞭するではないか。

同行は近く資本金を四百萬圓にする事になつて居り、愈々出で、愈々光輝の燦然たるに對し深く敬意を表する次第である。

### C 世界の不動貯金

株式會社不動貯金銀行を日本の不動と見る時代は既に全く去つた。現代の同行の内容実績は、優に世界に誇り得る新日本の齎らせる、金融界唯一の寵兒であらねばならぬ。

明治三十三年資本金僅かに十萬圓で創立せられてより、今日に至る二十有七年間、其業績は春草のもゆるが如く、逐年異數の一大進展を遂げ來つて、其總預金は昨年上半年末に於て一億九千九百餘萬圓となり、更に同年十月末には二億二千六百餘圓臺に吹き出づるに至つた。假りに我國の富力にして北米合衆國のそれに近かしとせば、恐らく同行の現状は二十億圓以上の預金總額に達し居るであらう。目下五億圓計劃を爲して居るが、其域に早晩到達する事は、萬人の均しく認むる處で、眞に理解ある預金者のみを有する卓越せる特色を持つて居る内容に於て、

吾等は他日十億にも二十億にも上つて行く事を否む事が出来ない。此特色は我國で同行のみが最も圖抜けて多く有して居る點であり、眞に物質を代表する銀行が、併せて精神的方面をも象徴して居るのであるから、得も言はれぬ温かい好感を與へるのである。現在に於て三井、三菱の兩銀行が世界的のものだと言ふならば、不動も世界的なりと稱して豪も差支ない。預金者が總體に於て家族的の親しみある點は、日本隨一の銀行で又驚異すべき大發展の基礎なりとも言へる。

此所は銀行學者が見のがす事の出来ない所で、金融界に於ける明治、大正の大産物として、世界に誇示し得るものであると思ふ。而して又漫然と見る事の出來ないものに其増資關係がある。即ち増資状態を観るに

明治三十三年九月創立	十萬圓
大正七年七月増資	四十萬圓
同 九年九月増資	五十萬圓

同 十一年九月増資	百萬圓
同 十五年六月増資	二百萬圓

即ち右の如くで現在の資本金四百萬圓となつたのであるが、創立以來毎期年二割以上の配當に加ふるに

大正八年下期創立二十週年記念	三十萬圓
同 十年上期預金一億圓記念	五十萬圓
同 十四年下期創立二十五週年記念	百萬圓

の前後三回臨時大配當を行つて爲め、昨年上期迄で一株の持主は二千五百三十九圓の配當金を受取つて居り、最初一株の株主は目下四十株の株主となり、舊株一株五百圓新一株四百圓として合計二萬五千三百三十九圓の分限者となつたと言ふ奇蹟的結果を見ると、銀座の土地を所有して居るよりも、どの位安全且有利であるかと云ふ事が解り、我國事業界に廣く求めて得られない、一大壯觀が発見され、

たゞく、啞然たる許りである。之れは同行が其相互組織の下に、昨年上期迄十期間合計四百四十萬圓の不動貯金者配當金を配當しての外、此結果である故、尙更敬服せざるを得ない。而して目下同行の利益率は、大體總預金に對し、年一分以上であるが、預金の増加率以上に、利益率は遞増して行く故、假りに平均して總利益率を年一分一厘の最少限度に押へると、預金が三億圓に達すれば、一箇年總益金は三百三十萬圓となり夫れから夫れと増資されて行くであらう。同行の信用は資本金に關し殆んど問題とされて居ないに係らず、株主の資産は級數的に増加して行くのだから面白い。宜なり、過般三萬餘株の舊株は一株五百圓で一兩月もたゝない間に賣盡されたのも洵に當然である。縦から見ても横から觀ても同行の内容實質は實に世界一の不動である。我輩が昭和第一歩の新年に際し、特筆する所以は實に茲にあるのである。

## D 不動貯金銀行の經營振は世界に冠たり

### (一)

今期議會に於ける震災手形法案は、不測の千波萬波を生み、財界に時ならぬ萬丈の波瀾を惹き起すに至つた。高所に立つて觀れば、其窮極の原因と罪は、破綻したる銀行自體に在つて、結局收まる所に收まつたと評するの外はない。平常不用意にして、而かも極めて放漫なる經營振を以てし、支拂停止後、預金者に殊勝らしく謝罪した所で、罪障は煙滅するものにあらず。茲に於てか預金者は、其取引銀行を嚴選するの外なく、内容實質を詳細に知悉して居つたならば、支拂停止を受くる筈もなく、又其所謂風聲鶴唳に驚愕し、水鳥の立つ音にも狼狽する要は毫もない譯である。

### (二)

今掲題銀行の内容実績を仔細に検討し、其經營振りの奈何に現想境に達し居るかを知らるに至らば、恐らく何人も其天下に冠たる所以を否み得ないであらう。所論を明白にする爲め同行の今期決算報告を左に掲げる。(單位千圓)

負債之部

不動貯金	一六四、二九九
定期預金	五五、四二六
普通貯金	三、一六三
資本金	四、〇〇〇
積立金	三、九〇〇
給付補填備金	四、三六四
未拂利息	二、九〇六
未經過利益	一二
身元保證金	五四五
假受金	四五

當期純益金

計

一、四五九  
二四〇、一二一

資産之部

公債	八一、二〇五
社債	二〇、二〇二
不動貯金者貸付金	六六、七三五
定期預金者貸付金	五、三六一
不動産抵當貸付金	二、一三八
銀行引受手形	二、九〇〇
土地建物什器	五、六四九
假出金	一六九
未收利息	一、二〇五
拂込未済資本金	一、三七六
預金	五一、八一五
現金	一、三六一
計	二四〇、一二一
	二五一



即ち預金總額は二億二千二百八十八萬餘圓であるに對し公債、社債、諸貸付金、預金及現金の總額は二億三千一百七十二萬餘圓に達し、總預金よりも今日即刻支拂ひ得る運用金の方が三百八十四萬餘圓も多い。單純に觀るとコー云ふ方程式は他の一流銀行にも往々觀らるゝが、其放資金の大部分を占むる貸付金の内容が、同行とは全然異つて居るものがあるのである。同行の貸付金は不動貯金者に限つて居り、しかも一箇年以上繼續して掛金をした者に限られ、最高額は五萬圓を超過して居ない。平均しての一人當り貸付高のソー莫大の額に上つて居ない事は、自明の理であり、従つて一方資金融通者の多數である事も的確に想像し得る。然るに普通一流銀行の貸出方面は、財閥を主とするが故に一方に偏した嫌ひがあり、へタすると巨額の貸付金が其マ、固定し、回收不能に陥る恐れがないでもない。この故に最近信用の厚い某一流銀行でも、成る可く財閥に對する偏在的貸付を避け、廣く民衆相手に其預金を放資することに決したやに仄聞して居る。而して信

用を主とする銀行が、又信用を主として貸付を實行して居るのは、名實共に天下に不動銀行あるのみで、物的の擔保を取る事は、資金放出の上に此上もなく安全ではあらうが、世人の九十九割迄は、ソナ呑氣な事を云ふて居られないのであるから「貯金報國」の上から觀ても、對人信用を以て貸付を行ふ事が理想であり、亦叙上の諸點其他汎ゆる方面からしても、同行の經營振りは天下の銀行界に冠絶して居り、其内容實績の極めて安全にして、預金者の實利に伴ふものなる事を疾呼せざるを得ないのである。

## (三)

而して同行の預金増加の趨勢は信用の増大に伴ひ、最近益々異常の進境を告げ、容易に他の覬覦を免さざるものがある。前期と比較するに左の如くである。

貯金契約	今期	前期
	四七五、九一二千圓	四二九、七九八千圓

預金總額

二二二一、八八八

一九九、〇五九

即ち半期間に貯金契約は四千六百十一萬四千餘圓の純増加を告げ、預金總額亦二千三百八十二萬九千餘圓の増大を示した。昨年下期の如き財界不況の裡に在つて、斯くの如き比率を以て貯金の純増加を見た銀行は他には絶無である。而して又同行は最近毎半期四萬人に近い満期拂戻者と、其満期金五千萬圓内外とを支拂つて居るのであるから、我國金融界に於ける偉大なる實勢力は、明白に察知し得るのである。又不動貯金者貸付金は昨年上期を一轉期として左の通りに増加し來つて居る。

大正十四年下期

二八、四九〇千圓

同 十五年上期

四〇、五三三

同 年下期

六六、七三五

而して又利益金及其處分を前期と比較して見ると左の如くである。(單位千圓)

	今 期	前 期
當期純益金	一、二三二	一、二二〇
前期繰越金	二二七	一三七
計	一、四五九	一、三四七

此處分

不動貯金者配當金	五〇〇	五〇〇
積立金	二五〇	二五〇
株主配當金	二五〇	二五〇
役員賞與金	一一〇	一一〇
後期繰越金	三三九	二二七

即ち利益金も今期に於て相當増加を告げ後期繰越金の漸次遞増し行くのを觀る事が出来る。要するに同行の如き純潔なる内容を有する銀行は、永遠に彌や榮えに榮ゆる必然性を有して居るものであつて、盛者必滅、會者定離の天則は銀行を喰物にする事業家又は放漫なる經營を以て私利を貪る者の享受すべき當然の結果

であり、國定教科書に特筆してある「自分の事は自分でせよ」と云ふ古聖の格言を遵守し、廣大無遍なる大黒天の教へに同化しつゝある人徳者及其銀行に、永久の榮光と隆昌の輝を見得ない道理があるであらうか………人生然り、銀行然り、財界政界然り、國家然り………牧野頭取は幾十年の體驗の後、自己及銀行を大黒神化し、更に預金者に向つて無言の大教訓を傳導しつゝあるを、我輩の經濟眼は喝破せざるを得ぬ。

### E 偉なる哉不動貯金

株式會社不動貯金銀行（資本金四百萬圓内拂込済三百八十萬圓）は、財界の動搖と天の下せる試練とを經る毎に、愈々其聲望を高め來り、業績の雄大、基礎の盤石、容易に他の模倣と端睨を免さざるものがある。

大正九年の大動搖、十二年九月の大震災及び本年上期中に起れるパニックは、

人間と經濟社會とに、恐るべき幾多の旋風を捲き起して、無數の悲劇を此世に残した。別して金融界に於ける大颶風は實に悲惨の極みであつた。責任を解せざる銀行當事者は、放漫極まる經營振を以て、一世を僞瞞し來れりと雖、奚ぞ天をも瞞着し能ふものでない。

爾來東京、大阪の組合銀行は週報の發表をも見合せざる可らざるに立至つたが七月、八月となるに及んで、上期の決算報告は遂に世人の翹上に上せられた。本年上期中の成績に於て一千萬圓以上の預金増加を來した銀行は、從來海内屈指と稱せられて居つた數銀行を數ふるに過ぎなかつたのである。（他の大部分は減少した）不動貯金が僅々四百萬圓の資本金を以て、上期中一千五百十萬圓の預金純増加と六千四百五十一萬圓の新契約の増大とを來した事は、其他の五千萬圓或は一億圓といふ巨大なる資本金を擁する銀行の中に介在して、實に萬丈の光燄を發つものなりと斷言して差支ないのである。

同行の性質から観て、右の普通數銀行と比較するに、單に預金の純増加のみを觀察するは非常な誤りであつて、新規契約高の増加と云ふ事にも併せ思ひ至らねばならぬ。仄聞する處に依れば、同行は九月中に一口百圓五十餘萬口の新規契約を獲得した由で、本年三月中のレコード四千二百五十萬圓を抜く七百五十萬圓てふ一大業績に對しては、唯々偉なる哉と絶叫せざるを得ぬ。従つて契約高總額は九月末に於て五億七千萬圓に上り、總預金亦二億五千萬圓に達したとの事で、大河の流れて愈々澎湃たるに彷彿として居る。素因あつて結果あり、盤石の業礎あつて、九鼎大呂に譬へ得るのである。過去三期間の業績を見るに左の如くである。

大正十五年六月決算		昭和元年十二月決算	
貯金	契約	貯金	契約
金	約	金	約
四二九、七九八千圓		四七五、九一二	
一九九、〇五九		二二二、八八八	
總額		總額	

僅々三期間の比較に於て、斯の如き長足の進展を遂げ來り、本年下期には更に偉大なる發展を見んとして居る。

又利益金及び其處分の比較は次の如くである。(單位千圓)

昭和二年六月		同元年十二月		十五年六月	
貯金	契約	貯金	契約	貯金	契約
金	約	金	約	金	約
六〇〇		五〇〇		五〇〇	
三〇〇		二五〇		二五〇	
三〇〇		二五〇		二五〇	
六〇		一二〇		二五〇	
三五九		一三三九		一二〇	
一、六一九		一、四五九		二二七	
合計		合計		合計	
				一、三四七	
				二五九	

即ち今期の利益金合計は、拂込資本金に對し十割以上に相當して居り、期を逐ふて漸次純益金の増加しつつあるを發見し得るのである。偉大なる哉不動貯金！盛名は彌が上にも天下に溢るゝであらう。

# 不動貯金銀行の研究終

昭和三年五月十五日印刷  
昭和三年五月二十日發行

不動貯金銀行の研究

定價 金壹圓五拾錢

著者

澁谷保之

發行者

東京市京橋區宗十郎町十五番地 澁谷保之

印刷者

東京市京橋區宗十郎町十五番地 岩村方福

印刷所

東京市京橋區宗十郎町十五番地 東京國文社

東京市京橋區宗十郎町十五番地

發行所

大黒屋書店

振替口座東京七五五四五番  
電話銀座座一八八六番





